

## 第2回（仮称）札幌市森林基本方針策定に関する有識者会議（平田委員）議事録

日時：令和4年6月6日（月）11：00～13：30

場所：北海道森林管理局

委員：平田委員、佐藤企画課長同席

札幌市：上田自然緑地係長、久保職員

=第4章・第5章=

**【上田係長】**（第4～5章説明）

**【平田委員】** 森林経営管理制度の対象を絞りたいという話が先程あったと思うが、大体どのくらいでと検討はつけているか。

**【上田係長】** まったくわからない。例えば3000筆が500筆に減っても15年で一回りというのが経営管理制度の通知であるので、年間30～40件になってもきびしいくらい。

**【平田委員】** やはりそうなると札幌市側のマンパワーが大切になってくる。人材確保がすごく重要なこと。実際に作業をする人材、指示を出す人材を含めて、きちんとした体制をつかって、引継ぎをできるというシステム作りをしておいた方がいい気がする。その時に一番いいのは地元に住んでいる人たち。有識者会議のように、例えば札幌市の職員さんが異動になってもちゃんと引き継いでいけるような組織というものがあるといいかなと。私が群馬で赤谷プロジェクトに参加した時に、国有林（林野庁 関東森林管理局）と地域協議会と日本自然保護協会という三者で管理していこうという体制にした。言ってしまうと、国有林の職員が異動になっても地域協議会がしっかりしているし、コロコロ変わらないでいけるというものがあつたので、そういうシステムづくりみたいなものっていうものもあるといいと思う。例えば、地域協議会みたいなものを作って、森林ボランティアに入ってもらいたいとか。

**【上田係長】** 群馬の事例における、協議会はどういった構成員なのか。

**【平田委員】** 構成員の中心は、主に温泉街の旅館の店主さん。元々のスタートは地域開発の議論からだが、その後地域を盛り上げるため地元の方から自然保護協会に相談があつて始まった。札幌市も主体的に動いている人たちを、仲間に引き入れるといいと思った。人が変わるとうまく続かないというリスク回避になると思うので。最初から地元の人たちも一緒にやっていくというシステム作りをできると思う。

**【佐藤課長】** 経営管理制度の対象の話だが、札幌だと林業経営をしたいという人は基本的にいないのか。

**【上田係長】** あまりいないと思う。事実上、私有林の中で人工林経営を続けるのは大企業さ

んが持っている土地のみで、たぶん個人の場合は多くが天然林化で終わるのではないかと思う。

【佐藤課長】小さい面積を持っている人が「ここで人工林経営をする」と意思があると調整に大きな労力が必要になるか。

【上田係長】その意欲を掴めば、最初のうちに、森林経営管理制度ではなくて、森林組合さんと結びつけて経営計画等をやるというイメージ。

【平田委員】意思がある方には自分と森林組合とでやっていただいて…という感じですね。小別沢も集積計画を設定していいと言ってくれる人にたどり着くまで、すごく大変だったという話で、たぶんこの作業だけでも、ものすごく大変だと思う。集積計画の設定作業は外部委託等する予定か。

【上田係長】所有者とのやり取りは、やはり職員でないと難しい。調査については外部委託。

【平田委員】そうなるとこの経営管理制度の対象の絞り込み作業もすごく大変そう。でも絞り込みは絶対やった方がよいと思う。

【上田係長】経営計画の策定を組合の方に進めていただいて、経営管理制度はうちでがんばるしかない。

【佐藤課長】森林組合が森林所有者に働きかけ、どんどん経営計画をつくってやってくれるというところもありますけど、なかなか都市部だと難しいか。とはいえ、森林面積は結構あるので、悩ましいところ。札幌市の森林組合は動けるのか。

【上田係長】担い手においても、実際のところは、今はどこの企業も仕事をいっぱい持っているので、ちょっと厳しい状況だ。

【佐藤課長】国有林側も事業量を増やしている。

【上田係長】意欲と能力のある林業事業者に、アンケートをとった。その中で「今後、経営管理制度の再委託を受けるか」の設問では、半数は「余裕ができれば可能」、あと半分は「当面難しい」だった。そこからみても厳しそうだ。

【平田委員】異業種参入のところで、土木業・造園業は余裕のある状態なのか？

【上田係長】余裕があるわけではないが、入札がくじ引きになるような現状なので、林業の担い手よりはましだと思う。除雪の担い手も大きな問題になっていて、冬の担い手を増やすために夏の仕事を増やさなくてはいけないことから、そういう意味でも林業…例えば林業の担い手が冬（の除雪業務）に参加する、もしくは土木業者の事業を増やすことで人員を多く確保できる話も出てくるかもしれない。

【平田委員】その時に心配なのが、とある県の国有林では建設業の人が入ってきていたが、他の県の異業種業者が落札するとすごく雑な仕事をしていく傾向があった。異業種の人たちに対して、育成や、仕様書をちゃんとしておかないといけない。

【佐藤課長】市の土木事業を取っているような会社だったら大丈夫かもしれない。

【平田委員】森林・林業が本業じゃない人達への安全管理とか細かい施業方法等含めて指導は、きちんとやっていかないといけないかと思う。

【佐藤課長】監督も大変になる。

【平田委員】となるとますます札幌市のマンパワーが必要になる。施業された現地を見る現場監督などは外注というシステムは作れないか。

【上田係長】できると思う。例えば、林政アドバイザー制度があるので、現地の監督は林政アドバイザーさんに任せるというのはできそう。アドバイザーさんも、常勤じゃなくて監督要員として契約をするというのはできそうだ。

【平田委員】森林環境譲与税は使える？

【上田係長】使える。林政アドバイザーは交付税還付もある。

【平田委員】活用しない手はない。

【上田係長】これを活用できていないのは、そもそもの発注行為等を行う時間の確保にも苦慮しているため。

【平田委員】事業体の育成もそうですし、地域の人たちを巻き込んだ会を作るとか。スタートのところで体制をきちんとしておけば、走り出してからこんな問題起きたというのも少なくなるのではないかなという気がする。

=第6～8章=

【上田係長】(第6～8章を説明)

【平田委員】白旗山の森林整備(広葉樹人工林の試行の山採り苗作業等)を高校生にやってもらうというのが出てくると、案として良いですね。地域課題の解決に直結するものなので。自発的に動いてくれたらものすごくよい。白旗山は駐車場もあるしアクセスしやすい。

【平田委員】小学校の木工キットの件について。小学生が図画工作で使ったキットが、何の木で作っているか全然わからないと言っていた。あまりにもショックだ。これは全部道産の素材にして、たたき台にあるとおりこれを札幌市内の子供たちに配ったら絶対いい。併せて、学校の先生に授業の中で森林業や木材の説明をお願いするのは難しいと思うので、例えば木工キットの中に漫画等で白旗山からやってきた木だと説明する資料を付けるとか、QRコードをつけて説明の動画を見てもらえるようにするとか。以前木工キットを作っている工場へ聞き取りに行ったのだが、30年位前までは、教材・素材として道産材を利用していたけれど費用(人件費)の面で、生産工場が中国産に移ってしまいそれに伴って外材へ移行したとのこと。また、柔らかい南洋材が釘を使う時に使いやすい材料だからという理由もあったようだ。単価がすごく安く、このキットを同じ価格で道産材で作るのは無理なようだ。学校側

としては、教材費を保護者から貰って買うので、選択肢として道産・国産材を使いたい気持ちはあるけど、やはり他との兼ね合いでできなくなってしまう。ここで森林環境譲与税を活用して木工キットを道産材に切り替えることはできないかなというのを、2年ほど前に考えていた。まさにこれが木工キットの話だと思う。

**【平田委員】** 先程の上田係長の説明にあった「木材はささくれが心配だから、子どもがよく触る公園遊具とか、腰壁とかでは無理しない」というのはすごく気持ちはわかるが、やはり腰壁に触りたくなるというのは気持ちいいから触るのであって、あれがたぶん鉄だったら触らないと思う。刷り込みじゃないけど、子どもの時から木の良さやさわり心地を、五感を使って体感するのは、すごく重要ではないかと思う。

それらの製品に一貫して「HOKKAIDO WOOD」というシンボルマークがついていて、「なんかこのマーク見たことあるよね。」という事に繋がれば。HOKKAIDO WOOD 10年計画にも繋がってくるのでいいのではないかと。

高校生から突然森林・林業という話をしても、やはり頭だけで入ってきてしまうので。本当は感覚が豊かな小さい頃のうちから始めたい。

**【上田係長】** そうなると、小学生が対象としてふさわしい？

**【平田委員】** 中・高校生も大切ですし、小学生も重要なターゲット。

その他、赤ちゃんの時にプレゼントをする森の輪プロジェクトなどは、北海道発のアイデアでもあるし、この時期からやっておくとお母さんを巻き込んでやっていけるので、けっこう宣伝効果もある。

**【平田委員】** 札幌市民が林業をよくわからないというのも問題があると思う。今まで林業をやってこなかった影響はある。そこにどうにか伝えていかないと。

学校においては、学校の先生の負担なく進めることが重要。現在、木育をはじめ「〇〇育」というのが多く、その教育を学校にお願いした結果、先生方が圧迫されていると、先生方と話していた時に聞いた。

一方で、学校の社会の授業で一応林業の時間があるが、1ページくらいちょっとやって終わり。北海道は7割が森林なのに、それに対して教科書1ページで終わっている。

**【佐藤課長】** 都市部の人間は森林が身近には見える所にはあっても、林業や木材に対する感覚としてはやっぱり遠い。

**【上田係長】** 授業には割り込めなくても、例えばキット等においては、譲与税を活用するので全小学校共通で使いましょう、みたいなことは可能だと思う。

**【平田委員】** 絶対に本当にやってほしい。小学生の1つの学年の生徒数分、毎年（木工キットが需要として）絶対出るとわかっていれば、生産する方でも計算はしやすい。

**【上田係長】** これに関しては、本当に我々もやりたいなと思っている。

そういう意味で、市の考えとしては小学生に注力すべきというのをポイントにあげていて、赤ちゃん用のプレゼント等は入れていない。

**【平田委員】** 赤ちゃんの口に入れるものは、木のほうが安心という感覚を親に持ってほしいなと思うので、検討してはどうか。

**【佐藤課長】** 赤ちゃん用のプレゼントはメンテナンスの紙やすりがついている。メンテナンスが必要というメッセージもついている。また学校のささくれもちゃんと、木材は気をつけながら使うものだよって知ってもらうこともある意味重要だと思う。

**【平田委員】** 木材利用の理解と促進をはかる上で、すごく大切な部分だと思う。ささくれの話も、難しいですけど、そこを怖がって尻込みしてしまうと何もできなくなってしまうのではないか。画一的なものを作れないというのも木材の一つの特徴で、それを何とかクリアしようと、みんな乾燥技術等いろいろ磨いている。また木はそもそも生き物だし、それのおかげで、CO<sub>2</sub>も吸収してくれるしということをきちんと伝えてあげるとというのが、ものすごく重要。小さいうちからそういうことを感覚的に分かるようになれば、節があるものだとしても強度には実は問題ないし、それも特徴の一つだと捉えられるようになると思う。逆に少しずつ違う（多様性がある）ということで面白いなと思ってもらえるようになってくれば一番嬉しい。そうすることによって消費するときにも、単純に安さだけを見て外国産材の材料を使うとかではなくて、ちょっと高くても地元の木を使おうということにも繋がってくると思う。幼稚園ぐらいからの小さい子に対してのアクションは、お母さんが巻き込める。

**【上田係長】** 子供が家に帰ってきて言われたら、親は素直に聞く、ということは実感する。札幌市の除雪でも、ずっと授業をやっているが、その効果は大きいと思う。

**【平田委員】** 除雪の普及啓発も面白いですよ。漫画でもずっとやっている。すごく成功していると思う。

**【上田係長】** 「ずっと続けたこと」は大きいとされていて、最初の頃の除雪の授業を聞いた子どもは今たぶん親世代になりつつある。これをずっと続けていけば、多くの市民に浸透する。1年・2年で結果を求めるのではなく、粘り強く続けるというのは、大きい。

**【平田委員】** たぶん木材の良さや特徴を感覚的に知っている人が親になったら、ささくれの文句を言ってくる人がいなくなると思う。

**【平田委員】** 7月13日に予定されている清田高校の授業で、森林林業の説明を行う機会がある。探究授業ということで、高校生に自分たちの地元の問題を取り上げて、それに向けて何かアクションを起こして、最終的に自分たちで発表しようというものを今年から始める。すごく良いタイミングなので授業を通して得られたものを、基本方針にエッセンスとして入れられるとよい。

**【上田係長】** アンケートか何か学生にとれるとよいと考えている。学生の素直なところを把握したい。

【佐藤課長】木工キットの話があったが、白旗山で考える製材で、そのキットも作成するのか。

【上田係長】上手くいけば、その方が安く済むと思っている。

【佐藤課長】白旗山の製材は、どのようなことに使うのか？

【上田係長】構造材には使えないクオリティだろうと思うので、もう少し使いやすいもの、例えば土木の仮設材など。

【佐藤課長】せっかく市の木ということであれば、特別なことに使った方がいいのかな、と思う。一般的な用途に使用するには量もないし、どういう需要に対して出すのかというのを考えておかないと、ちょっとした赤字では済まなくなるかもしれないという心配がある。

【上田係長】ご指摘のとおりだと思う。

【佐藤課長】学校用の工作キットとか特別な用途に出すというのなら教育の面も込めてやるというのがいいかなと思う。木工館で材料として使ってもらおうとか、そういうのがいいのかなという気がする。産業のつもりで出すというのは、もったいないという気もするし、たぶん高くついてしまうのではないか。

【上田係長】佐々木委員と話をする中で、今天然乾燥を研究しているようで。白旗山も敷地はたくさんあるので、乾燥機ではなく天然乾燥を主体にする、そして簡易製材機だったらそんなに高くないのでそれでやるというのはひとつあるのかなと。そうしたら本格的にならないにせよ、一部の特定の利用のためだけの産出というのは可能ではないかと思う。

【平田委員】出来たら夢が広がる。白旗山で川上から川中まで、さらに下って札幌市内で川下まで全部見学できる。

【上田係長】広報とか広告とか、そんな普及啓発をしていきたいなと思う中で、よくある単純なポスターを作って貼ってだとあまり効果がないなと感じているが、一方で地下鉄広告だったら効果がありそうだなというのがある。その辺の感覚みたいなものはあるか。

【平田委員】一般の人がたくさん目につくところ。地下鉄とか（つり革広告はもちろん、駅構内のベンチを市有林の木で作るなども面白いかも）。去年、「大丸」でクリスマスに馬搬の馬を連れてきたように、すごくインパクトがあるとマスコミさんも拾いやすいだろうなど。意外なところとのコラボというのが、すごく宣伝効果があるのではないか。そしてマスコミさんに取材をするのに良いタイミングで情報を出してあげる。

HOKKAIDOWOOD はロゴをすごく上手に作っているので活用効果はあると思う。洗練されていて、オシャレな感じなので。

何か他業種と上手くコラボする、というのもいいのではないか。後重要な事は、単発で終わらせるのでは無く、できる限り続けて情報を発信するというのも重要。北海道森林管理局

でも今ちょうどそれをしようとワーキンググループを立ち上げて頑張ろうとしている。

【佐藤課長】林業は都市部の人にとって遠い存在であって、目にとまらないところがある。特に北海道の人工林の木は梱包材向けの利用が多く、消費者の目にはつきにくい。消費者の身近なところで道産人工林材を見たり、触れたりして知ってもらう事が重要ではないか。

【上田係長】家選びの時に、今までであれば「道産木材を使っている」企業があってもそこがプラスと捉えづらかったが、今後はちょっと前向きにとらえてもらえるようになれば。

【平田委員】昨年、工務店さんとかに北海道木材を使ってくださいという、業者さん向けのシンポジウムに出たが、工務店さん自体が「〇〇がよいから道産木材を使いましょう」と施主さんに言えるストーリー性がなくて、なんて言えばいいのかわからないとのこと。そのストーリー作りをちゃんとやらないと。

【佐藤課長】道内でも頑張ってくれる業者さんがでてきているから、そういうところから広めていくのが良いのかもしれない。

【平田委員】外部の意外なところとのコラボだけではなくて、まずは足固めが必要と感じた。道と、石狩森林管理署（北海道森林管理局）と札幌市3者で連携し、その中で一緒に北海道の林業の広報を一体でやっていくプロジェクトが望ましいのでは。

【上田係長】そういうものができると、それぞれでやるよりもすごくやり易いし、効果が高くなる。

【平田委員】広報は、当事者意識とやる気をもってやると面白いものを作れると思う。そういう仕組みを札幌市、道と森林管理局とみんなで作れるといいのかもしれない。

こういった連携を進める上でも札幌市のマンパワーも必要。増員が必要となる。冒頭に話したスタートのシステムを作るのに、札幌市側がマンパワー不足でガタガタになってしまったら、どうしようもない。

【佐藤課長】「輸入材の出荷停止等によって木材の産出が必要になる場合に備えて平準化」となっているが、必要になるのであればとっておけばいいのでは？というふうに取りられる。ゼロカーボンとか吸収量の確保から積極的に森林を若返らせる方が今は一般的なのかなという気がしていて、平準化とはちょっと違う気がするのと、今の状況に引っ張られすぎている気がする。

【上田係長】たとえば価格が上がった時にみんな材を出してしまっていて、いざ必要になった時に私有林に出せるのがないという時に、行政が最後の砦として少量でも出せるのが、行政としての意義という考え。価格に左右されず定期的に同じ量を出しつつ、同じ量を材畜しているというのが行政林のあるべき姿という切り口で行きたいなというところ。

【佐藤課長】必要になる場合の備えだと、別に今施業しないで取っておけばいいのでは？となる。今、人工林施業を始め森林整備をやらなければいけないのは、若返りで森林の吸収量

を高めるといふ公益的な意義があるからなのでは。

【上田係長】検討する。

【佐藤課長】他の委員の方の意見に、短期的な意見、状況でやるのではなくて長い目を見た方がいいのではというのがあった。そういう意味では引っ張られ感があるかなと。

【平田委員】今後はどれだけ当事者（＝関係者・応援団）を増やせられるかだと思う。今までの札幌市の林業が人任せ、他人任せで当事者意識がなかったのを、先程言っていた市民参加のボランティアの人達も含めて、どこまで人口の多い札幌市内で「自分たちもその当事者の一人」という意識をもたせられるかということだと思う。

それにはやはり教育がすごく重要で。時間はかかるし、すぐには効果を発揮しないと思うけど、方針が10年間のものあればそこは絶対外せない。広報・教育・普及啓発っていうのは生ぬるく適当にやっちゃだめだと思う。森林は50年、60年かけないと育てられないので世代を超えて繋いで行かなくてはいけない産業。いつもそれは講演会などで話す時に絶対言うようにしてはいる。

【上田係長】そういう意味では50年、60年スパンの話を行っているから、浸透するまでに10年・15年かけても充分。

【平田委員】10年で浸透してくれたら結構万々歳という話。

【佐藤課長】10年でも早いほうだと思う。今の時代の流れからすると「10年なんて」とか言われるかもしれないけど。

【平田委員】林業が「業」として成り立つ（サイクルがまわる）のは、一部の地域を除き全国で、収穫期の今が初めて。日本全国として林業になるかならないか、今がちょうど瀬戸際だと私は思っている。

【佐藤課長】伝統的な林業地以外の人工林は初めての収穫経営の時期。これだけの人工林はなかったわけだから。1000万ヘクタールの全国的人工林をどうするのかという時期。

【上田係長】そういう意味では今すごく重要なところであると。

【平田委員】今森林が広がっている場所がかつてはハゲ山だったっていうことは、伝える必要があると思っている。最近大雨が増えているが、過去のようなハゲ山の状態なら災害が今以上に頻発に発生する。戦後のハゲ山の時代は毎年、洪水被害で多くの人々が亡くなっていた。そういう資料も提示して、森林は都会の生活も守ってくれているとても大切なものだという事を言っていかなければならない。最近杉が花粉症の影響があるから切ってほしいとか、北海道でも防風林が邪魔になるから切ってほしいという話もでる。都会や街中の生活も森林からかなり恩恵を受けているはずなのに、知らないっていうのが現状。でもそれって私達行政がちゃんとPRしてこなかったという問題の一つだと思う。

【佐藤課長】市の普及啓発には期待している。人口をたくさん抱えているところにやってい

ただくというのが一番だと思う。

【上田係長】私としては、普及啓発が軽く扱われるのは違うとされていて、真剣に取り組んでいきたいと考えている。その中でも、やはり全部はできないので、何か「これは大事」というところを特化して、そうじゃないところは置いておく…くらいの感じかなとされている。

【平田委員】市民一人当たりで割り算をして、一人当たりいくら分の譲与税を教育に使いました、普及啓発に使いましたと、そう考えると全然大きい金額ではない。普及啓発とか広報とかは本当にちゃんとやらなきゃならない。中途半端にやったら何の効果も出ないで終わる。

外部委託もありだと思う。そういうのが得意な方がたくさんいる。広報は楽しんでやる人がやったら強い。ただ、外部委託で単に丸投げみたいな感じで中途半端にやってしまうと、お金だけがかかって全然効果が得られないというのが出来てしまう。

【上田係長】そういう意味では今は HOKKAIDOWOOD のロゴが既にあるって、その軸がしっかりしていれば、毎回ポスターのテーマを考えるとかしなくていい。粘り強く 10 年間デザインを変えないというのもあり。

【平田委員】そうですね。せっかく定着したのを換えちゃったりすると…。

【上田係長】今回の森林基本方針では、基礎知識となる基本編を作ろうとされている。やはり森林は内容が難しいので、まず「森林って何?」「間伐って何?」「木を切っているの?」「木材って何?」「乾燥って何?」みたいなことを、理解してもらわないと話が始まらないなと思った。それで、通常であれば参考資料に組み込まれる中身を一番最初に持ってきて、10 ページ以上かけて「森林とは」というものをわかりやすく伝えようと考えている。

【久保職員】その中で、平田委員が書かれた漫画なども活用させてもらいながら作らせていただけたらと。

【平田委員】既存のものであればいくらかでも切り貼りして使っていただいて大丈夫なので、ぜひ活用して欲しい。私はそういう使い方をしてほしくて著作フリーにしている。商業利用でなければどなたでも使っていい。どんなふう加工してもいいのでどんどん使って欲しい。逆に「こういうイラストないですか」というのがあれば言ってもらえれば。大抵のものはだいたい書いてあるので。

【上田係長】ありがとうございます。エッセンスとして使う予定。

【平田委員】森林のおかげで、街の中の生活は成り立っている。水だってきているし、洪水だって抑えられている、本当はものすごく恩恵を受けているはずなので、札幌市の人達がそこもちゃんとイメージしてもらえるようになってくれると嬉しいと思う。木材生産だけじゃない。最近だと CO2 吸収が着目され始めているが、それ以前の問題で、生活する毎日の水や田畑だってそれのおかげで潤っているというのをイメージしてもらえると嬉しい。それを子どもの頃からイメージとして持っていれば、また違ってくると思うので。教育は本当に重要だと思う。